

第3章 ま と め

第1節 佐賀家漁場の一漁期～昭和16年佐賀漁場日誌より～

佐賀漁場の1漁期の作業暦を昭和16年の日誌からひろくと第12表のようになる。1月から2月はまだ、作業というほどの作業は入っていない。ただし、漁場を管理しているものはその諸行事、管理の為の仕事は欠かせない。2月に入るとすこし、本年の漁場の開設のための諸作業が始まる。

まず船大工の仕事がある。この年は桡船、磯舟、三半船の新造があったため、2月3日節分の日より船の材料の搬入が始まる。11日に船大工4人が桡船の造船にかかる。桡船は翌月の14日に竣工。桡船1艘の造船には船大工4人で32日間ほどかかっている。また、桡桁を造るのに大工2人で2日かかり、その後磯舟造船にかかる。3月17日とりかかり、3月28日に完成。磯舟は大工2人で12日を要している。新造桡の台下ろしは竣工の9日目に行っている。これは縁起をかついで日を選んだものと考えられる。また、漁期中に起し船の修理が4月10日におこなわれている。三半船に関しては竣工の日時が不明であり、所要日数がわからない。

漁具等の準備は2月中から始めている。網の材料や歩み板用の木材の購入など原材料の調達である。26日には本年雇入れ漁夫の受け入れ準備として、漁夫の居室などの清掃等を行ったのであろう。3月に入り、漁夫の受け入れの最後の準備をし、3月3日には最初の先発隊の漁夫13名が到着。次の日からすぐに先月用意した網材で新しい桡網を造り始める。この外にも番屋周辺の雪掻き作業などがあった。10日には山仕事といって、特に漁場で使う蔓ものなどを採りに山へ赴く、セツの結束に用いる葡萄蔓や身欠きを結束するシナの木皮などを採集の為である。12日には後発の漁夫の本隊32名が到着すると浜は俄かに活気をもって来る。すぐに船倉にしまいこまれていた船を出し、漁撈具の手入れが始まる。そして船着場の造成のためセツをいれる。また、土俵造りや網なおし、網や縄の整理、船入間の清掃、櫂造り、陸上での準備は進んでいく。

やっと、漁夫たちが来てから2週間目、沖に出るときが来た。朝から船に土俵を積込む。役ダンブ、根綱、掛け綱なども準備し、まず土俵入れから始まる。型ができたのでいつでも投網できる。鯨漁の最終準備は整ったことになる。

3月28日網下ろしの祝。午前8時和尚様一同が来て本年の大漁を祈禱をし、やがて配膳を終わり、着席後本年の各網ごとに役割分担を発表した。その後祝宴に移った。本年の元場の役割分担は次のようであった(註1)。

大船頭	二本柳	善	松
起船頭	山	田	吉 治
沖船頭	佐	賀	仁三郎
桡 係	二本柳	銀	蔵
磯舟乗	山	本	安五郎
同	吉	井	勝太郎
同	松	本	岩 治
舳 係	村	中	嘉代吉

洞の間係	村	山	喜一郎
	佐々木	善	治
	原	留	蔵
	小松	藤	吉
	四ツ谷	清	吉
	佐藤	清之助	
	沢田	良	男
	石田	藤太郎	
	酒井	松	彦
	室館	伊與吉	
	丹内	徳	松
	落川	正	記
	秋本	正	一
	山田	善	吉
	新宮	重	二
	渡辺	種	松
	下館	三太郎	
	岡廻兼監備	山田	末太郎
	飯炊	杉本	末一
	同	渡辺	兼松
帳場	佐賀	兵太郎	
	山本	吉五郎	
	林	勇之助	

3月31日本年初めての投網をする。本格的な鯧漁の始まりである。これから天候により網を揚げたり、入れたりの繰返しが続く。漁夫の仕事も陸上の仕事と、沖作業とが平行していくことがわかる。4月2日大網に、数の子鯧1尾がかかり初鯧となる。これは漁場の神棚に本年の初鯧として供えられたものと考えられる。これから6日まで、投網、揚げ網の繰返しが続くが、漁はない。6日から8日までは天候が悪く、沖作業は中止となる。9日から18日までまた、投網、揚げ網の繰返しが続くが、漁は9日鯧3尾、13日1尾、16日4尾、17日3尾、18日1尾とまだ本格的な漁とはなっていない。

この間陸上での作業が行われている。4月1日の4番杵修理に始まり、ウィンチもっこ作り、トロッコの線路直し、薪運搬、各干場造り、各種網の直し、中網の型直しと土俵入れ替えなど、鯧がいつでも漁獲されてもいように陸上の用意を整えている。

4月18日午後から大時化となり、19日一杯大時化となる。18日の日には増毛で漁獲があったことが情報として入ってきていた。増毛で漁獲があると1両日中にはこの辺に鯧の群来があることから、天候の回復を祈ったことであろう。20日、前日の時化も朝になって少し屈いだ。待ってましたとばかり、午前6時半投網。しかし、晴天でも午後3時過ぎまで西風が相当強く、中網は網揚げし、大網はそのまま沖泊した。夜に入り時化も納まり、屈いできた。21日、午前2時半、中網も投網し、大網と同じく沖泊。やっと鯧がやってきた。午前11時前、一斉に網起こしにかかる。大網、中網と

も汲船1杯半の収獲があり、正午汲船を出して沖揚げをする。晩5時大網汲船5、6杯、中網2杯収獲。この日だけで11杯の収獲があった(註2)。大漁の祝と、漁夫の疲労を癒すために、玉サト(玉砂糖)が全員に配られた。しかし、夜に入っても鯨の群来は止まらず、22日午前1時半から午前5時の間に大網、中網合わせて、4枚収獲した(註3)。杵は留萌港の内港に引き入れる。4月23日は時化のため、沖休みにし、内港に引き入れた鯨の沖揚げを行う。4月25日は大網、中網に軽く2杵収獲したが、潮流に流され、翌朝内港に引き入れる。午後5時にまた、一斉に群来があり、大網だけ操業。翌日前日の大網収獲分10杯を内港にいれ、7杯を沖揚げする。大網は午後揚げる。27日は内港に引き入れた杵より鯨生売り、元場では本日より鯨つぶしに入る。夕方大網を投網し、沖泊。また、鯨4杯生売り。28日は昼浜中、瀬越方面大漁、礼受は薄乗り、内港の杵より4杯元場へ輸送し、廊下へ入れる。29日には大網1杯半、中網1杯半、漁獲し全部元場に揚げる。30日は大網3杯、中網半杯の漁獲し、すべて元場の廊下へ入れる。連日の大漁でその祝と疲労をねぎらうために、漁夫岡廻りの出面に夕食前黒砂糖湯を1杯づつ飲ませ、また、夕食時酒を飲むものには茶碗1杯の酒、飲まぬものには落花糖1椀づつ馳走している。

5月1日より鯨つぶしと平行して、鯨粕製造のための釜炊きに入る。6釜で53玉炊く。1釜あたり9玉を炊いたことになる。夕方から大網、中網投網。増毛にい行っていた漁夫が切り上げのあと立ち寄るということから、増毛方面は漁期が終了したと考えて良い。2日は朝揚げ網し、前日と同じ鯨つぶし及び釜12枚で釜炊きをする。3日朝、大網を投網し、鯨6モッコ、イカ100尾収獲。作業は前日と同じ。ただし、今まで岡作業に留萌より出面を頼んでいたが、本日で切り上げ、明日よりは不足分は漁夫で対応する。4日は前日と作業は同じ。鯨抜き作業あり、陸作業の方が主力となりつつある。5日鯨つぶしが終了。鯨干しと、釜炊き作業。6日釜炊き12釜をもって釜炊き作業終了。4月20日から30日に収獲した鯨の第1次加工作業を終了する。粕干し作業は継続。7日、作業の一段落の廊下洗いとして夕食に漁夫一同に酒一椀づつ、御萩餅5つの御馳走を出す。身欠結束のための皮作り、及びノマグシ作りを行う。また、粕炊き用の石炭の搬入もあった。8日は大網、中網とも投網する。作業は粕干し、鯨干し、石炭運搬。9日午後1時揚げ網、各1モッコづつ鯨収獲。陸作業は前日と同じ。ただ、干し上がった笹目を倉に入れる。

11日になって、また阿分方面から薄乗りだが、鯨の来游の情報があった。強風で時化ぎみだったが、なんとか大網、中網とも軽く1杵収獲し、内港に引き入れた。12日前日の内港引き入れの中網の杵から7杯汲む。13日は前日残した大網の杵より11杯の鯨を汲み、釜炊きの用意をする。14日、25釜の釜炊き、乾燥中の粕をすべて倉に入れ、今日炊いた粕を干す。鯨7籠収獲。15日は前日と同様の作業と解粕機を3台製作する。16日も同様作業。この頃より製品の梱包が始まる。笹目11俵を俵積み、土丹倉の粕の巻き直し作業あり。17日は雨のため、内仕事で、粕の建て縫い、身欠結束用の皮作り、汲み船洗い作業。18日最後の釜炊き12釜。廊下を洗い、流し板などの掃除をする。笹目11俵の製品検査あり、二等検となる。

これ以降は網は投網しているが鯨の漁獲はない。ほとんどが製品の荷造りと明年の漁に向けての準備作業になる。製品の荷作り作業としては、19日からは粕干し作業、身欠き抜きと結束作業、同鯨と粕の建作り、鯨の選定作業である。本年の終了に対する作業としては、各種用具の倉入作業、網の修理、建物の修理などが行われる。網は大網が27日に揚げ網し、型を揚げて本年の分を終了している。中網、小網は雑魚用としてまだ稼働している。28日に絞め粕、胴鯨、魚油の検査を行い、30日旧粕496俵と新粕166俵計662俵を礼受沖に停泊した浦潮丸に積込売り渡す。この年は雨が続き各漁場では絞め粕の乾燥に手間取っている。粕の乾燥用の藁を何度となく取替えを余儀なくされて

いる。粕に蛆の湧いたものまで現われ、整理をせざるを得なかった。6月に入っても粕干し作業は続き、12日まで粕干しにかかっている。その後17日まで粕の俵積み作業や製品の出荷に追われる。網の方は中網、小網を5日までに揚げ、セツは4日に揚げている。船は3日に三半船3艘を倉入れ、1艘を草囲いした。

6月17日、本年の作業が総て終了し、漁夫の切り上げし、漁夫の荷物こしらえし、駅に荷物を運搬する。翌日漁夫は2団体にわかれ、礼受を後にした。

漁夫の稼働日数は、先立ち漁夫が3月3日よりの107日間、後続漁夫は3月12日からの98日間である。

(福士 廣志)

註及び参考文献

1 ニシン漁場における漁夫及役人の呼称は次のとおりである。各漁場において若干違いがある。

- 1、大船頭 …………… 漁場の全責任者、漁撈の指揮に当る
- 2、下船頭または副船頭 … 大船頭補佐役
- 3、起船船頭 …………… 起し船操作責任者、大船頭佐補役
- 4、磯舟乗り …………… 投網中の網の維持、海陸の連絡に当る
- 5、胴の間係り …………… 桙船に乗り、桙の取扱いに当る
- 6、舳係り …………… 網起しの時の操船、繰越網の取扱いに当る
- 7、陸廻り …………… 陸上・海上・漁撈の準備万端を整える漁場の裏方
- 8、飯炊（鍋長） …………… 漁夫・人夫等に供する食事・炊事全般の責任者

また、一般漁夫・人夫の呼称は次のとおりである。

- 1、上 雇 …………… 漁場経験を有する熟練の漁夫
- 2、当渡り …………… はじめて漁場で働く漁夫・初心者・未経験者
- 3、手間取り …………… 多忙（沖揚や加工）の時に雇い入れる臨時的人夫・漁夫
- 4、ジャコシカまたはジャコ …………… 渡り漁夫、漁場を渡り歩む流浪の漁夫

なお、「ヤン衆・ヤトイ」の呼称は侮蔑的呼称として漁場社会では使用されず、主として「若い衆・若いもの」と呼んだ。また、各種の記述に「ニシン殺しの神様」または「神様」の呼称を見ることがあるが、当地方では戯言葉と理解されている。

2 汲み船1杯とは、汲み船に積載できる鯨の量で1杯は約10石。

3 4枚とは桙網4枚分の鯨のことで、普通桙網1枚には250石から300石の鯨が入った。

表12 「昭和16年因佐賀支店日誌」より

	諸 行 事	着業準備（人夫の動き）
1月1日		
2日	・初乗り（船頭蔵）	
3日		
4日		
5日		
6日		
7日		
8日		
9日		
10日		
11日		
12日		
13日		
14日		
15日		
16日		
17日		・1号蔵屋根修理
18日		
19日		
20日		
21日		
22日		
23日		
24日		
25日		
26日		・蔵々の屋根雪おろし
27日		
28日		
29日		
30日		
31日		

	諸 行 事	着 業 準 備 (人 夫 の 動 き)
2月1日		
2日		
3日		・船材料搬入
4日	・節分～豆占い	
5日		
6日		
7日		
8日		・船材料搬入
9日		・船頭蔵より船出 人夫19人
10日		・船材料搬入
11日		・桢船造船に掛る 大工4人
12日		・網材料購入
13日		
14日		
15日		・歩み板用丸太購入
16日		
17日		
18日		・歩み板 製材し搬入
19日		・焼ダメ準備
20日		・焼ダメ 手伝い8人
21日		
22日		
23日		
24日		
25日		・蔵々の屋根雪おろし
26日		・漁夫受入準備
27日		
28日		・船材不足分搬入

	諸 行 事	着 業 準 備 (人 夫 の 動 き)
3月1日		・漁夫受入準備 (漁夫用家具購入ほか)
2日		
3日		
4日		
5日		
6日		
7日		
8日		
9日		
10日		
11日		
12日		
13日		
14日		・新造桹船竣工
15日		・桹桁他作成 大工2人
16日		
17日		・磯舟造りに掛る 大工2人
18日		
19日		
20日		・三羽造船に掛る 大工3人
21日		
22日		・新造桹船台下し
23日		
24日		
25日		
26日		
27日	・網おろし準備(餅つきほか)	
28日	・網おろし ・役人発表	・磯舟完成
29日		
30日	・龍神講御神酒上げ	
31日		・とも權、早權、タモ台他諸用具揚陸

漁場作業（漁夫の動き）	
・先立漁夫13名到着	
・梓網作り開始	
・山仕事準備	
・山仕事開始	
・漁夫32名到着	
・船倉より船出し	
・山仕事終了 ・山採材搬入	
・漁夫3名到着 ・セツ入れ	
・山採材搬入	
・手網作り ・土俵廻し	
・漁夫2名雇入れ	
・除雪 ・網、櫓作り	
・型入れ	
	手伝人 女4名
・投網 沖泊まり	

	諸 行 事	漁 場 作 業 (漁 夫 の 動 き)
4月1日		・ 4 番枠網修理 ・ ウインチモッコ作り
2日		・ トロッコ線路直し
3日	・ 善宝寺 お札納め	
4日		・ 白子干場作り
5日		・ 5 番枠網修理
6日		・ 早權材購入 搬入
7日		・ 高波に備えてのセツ吹石入れ
8日		
9日		・ トロッコ線路直し ・ 薪運搬
10日	・ 初ニシン稲荷に供う	・ 6 番枠網修理 ・ 大工起し船修理
11日		・ 網打ち ・ 錨準備
12日		・ 中網型手直し ・ 土俵入替
13日		・ 波み船で薪廻し ・ 大網、手網二枚入替え
14日		・ 干場整理10人
15日		・ 干場整理 8 人
16日		
17日		・ 雪切り ・ 手網作り ・ 木割り
18日		
19日		
20日		
21日		・ 中網型直し
22日		
23日		
24日		
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		

漁撈作業（投網・揚網）		漁撈作業（漁獲）		加工作業（人夫の動き）
中網	大網	大網	中網	
・沖泊	・沖泊			
・1時揚網	・1時揚網・18時投網 ・22時揚網	ニシン1尾		
	・1時投網 ・沖泊	ニシン1尾		
・晩投網 ・24時揚網	・朝揚網 ・晩投網・沖泊			
・17時投網 ・23時半揚網	・23時半揚網			
・7時中途揚網 ・21時投網 ・1時半揚網	・7時投網 ・1時半揚網	ニシン3尾		
・15時投網 ・16時揚網	・3時半投網 ・沖泊			
・8時投網 ・15時揚網	・15時揚網	ニシン1尾		
・9時投網・10時半揚網 ・夕方投網	・5時投網・10時半揚網 ・夕方投網			
・0時揚網 ・11時投網	・0時揚網 ・11時投網			
・3時揚網	・3時揚網 ・19時投網	ニシン4尾		
・16時投網	・朝揚網 ・16時投網	ニシン3尾		
・1時揚網・10時投網 ・15時半揚網	・1時揚網・9時投網 ・15時半揚網	ニシン1尾		
・6時半投網 ・15時揚網	・6時半投網 ・沖泊			
・2時半投網		1杯半 5～6杯	2杯	
・5時揚網	・5時揚網	1枠 別枠1枚	1枠 別枠1枚	（4杯生売り）
・5時投網 ・21時揚網	・5時投網 ・21時揚網	軽く1枠	1枠	・沖揚出面 人夫により港で沖揚
	・17時投網 ・沖泊	軽く1枠	1枠	・沖揚出面 男17人 女2人
	・午後揚網			・沖揚出面 男21人 女8人 （1枠生売り）
	・18時投網・沖泊			・ニシンツブシ出面 男女12人 ・雑夫1人 モッコ背負9人 （4杯生売り）
・朝投網 ・沖泊	・沖泊			・ニシンツブシ 10人 ・身欠裂き 10人
		1杯半	1杯半	・ニシンツブシ・身欠裂き人夫若干働く
・夕方揚網	・夕方揚網	3杯	半杯	・モッコ背負 男女26人

	諸 行 事	漁 場 作 業 (漁 夫 の 動 き)
5月1日		・セツ場
2日		・釜焚の支度
3日		
4日		
5日		
6日		・廊下掃除
7日	・廊下洗い	・ノマ串作り ・身欠結束皮作り
8日		
9日		
10日		
11日		
12日		
13日		・釜焚の支度
14日		・粕中入れ
15日		・解粕機3台製作(大工)
16日		・笹目俵詰め
17日		・粕詰建縫い ・身欠結皮作り ・汲み船洗い
18日		・廊下掃除 ・胴流し洗い
19日	・廊下洗い	
20日		・脂掛物倉入
21日		
22日		
23日		
24日		・手子、モッコ等脂倉格納 ・釜用具廊下に格納 ・中網修理
25日		・手網修理 ・大網切り ・粹染め
26日		・大網修理 ・小網準備
27日		・網修理 ・小網作り ・釜前を解く
28日		・砂利廻し
29日		・粕積出し作業準備
30日		・粕積出し作業
31日		・差し証、建物修理

漁撈作業（投網・揚網）		漁撈作業（漁獲）		加工作業（人夫の動き）
中網	大網	大網	中網	
・夕食後投網	・夕食後投網 ・沖泊			・釜炊き～釜6枚で53玉 ・ニシンツブシ60本・割き若干
・朝揚網	・沖泊			・釜炊き～釜12枚・出面3名 ・ニシンツブシ71本
	・15時揚網	・6モッコ イカ100尾		・釜炊き～釜12枚 ・ニシンツブシ10名
	・2時半投網 ・晩揚網			・釜炊き～釜12枚・ニシンツブシ3名 ・カズノコ抜き4名・ニシン割き14名
	・18時投網			・釜炊き～釜12枚 ・カズノコ乾し・粕付
・朝揚網				・釜炊き～釜12枚 ・粕乾し・出面7名
・昼食後投網	・昼食後投網	・イカ5函		・カズノコ乾し・粕付 ・女出面7名
・13時揚網	・13時揚網	・1モッコ ・イカ4籠	・1モッコ	・粕付・カズノコ、ササメ倉入 ・女出面7名
・23時投網	・23時投網			
・0時揚網・2時投網 ・夕方揚網	・22時揚網	・軽く1枠	・軽く1枠	
	・19時投網		・前日の枠 8杯汲む	
	・沖泊	・前々日の枠 11杯汲む		・手間取男女20名
	・沖泊	・三日前の枠 2杯汲む		・釜炊き～釜12枚12名・粕付 ・粕乾し・出面男女17名
	・夕食後揚網			・釜炊き～釜12枚 ・出面男女12名
				・釜炊き～釜12枚昼まで ・身欠なやおろし
				・釜炊き～釜12枚
	・夕食後投網			・釜炊き～釜12枚 ・女出面11名
	・16時揚網	・イカ3函		・粕乾し・身欠抜き
	・朝投網 ・沖泊	・イカ2函 ホッケ3籠		・女出面10名・身欠結6名
	・午後揚網	・ホッケ3籠		・玉付
				・胴ニシン・粕荷作り
	・晩投網			・胴ニシン・粕建作り
	・朝揚網			・カズノコ選び
				・カズノコ選び
	・7時投網			・カズノコ選び
・子網入れ	・朝揚網 ・午後型揚げ		・（小網）イカ1函 ホッケ7籠	
・朝投網			・（小網） ホッケ6籠	
・中網揚網 ・小網揚網				・カズノコ選び
・夕食後中網投網			・ニシン2モッコ	・粕付作業

	諸 行 事	漁 場 作 業 (漁 夫 の 動 き)
6月1日		・馬小屋土台直し ・建物修理 ・葦洗い
2日		・川淵修理
3日		・三半船4艘倉入
4日		・倉屋根(桎・瓦)修理 ・セツ揚げ
5日		
6日		・手網、枠網修理 ・船洗い
7日		
8日		
9日		
10日		
11日		
12日		
13日		・粕詰め ・粕拾い ・建縫い
14日		
15日		
16日		・網作り
17日		・網作り ・漁夫切上げ準備
18日		・漁夫切上げ1班29名、2班31名
19日		
20日		
21日		
22日		
23日		
24日		
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		

漁 撈 と 漁 獲	加 工 作 業 (人 夫 の 動 き)
・ (中 網) 沖 泊	・ 粕 付
・ (中 網) 沖 泊 ・ イ カ 8 函	・ 粕 干 し
・ (中 網) 沖 泊	
・ (中 網) 沖 泊 ・ (小 網) 楊 網	
・ (中 網) 楊 網	
	・ 玉 付 ・ 粕 干 し
	・ 玉 付 ・ 粕 干 し ・ 中 入 れ
	・ 玉 付 ・ 粕 干 し
	・ 粕 干 し
	・ 粕 干 し
	・ 粕 詰 め
	・ 粕 詰 め
	・ 粕 詰 め
	・ 粕 詰 め
	・ 粕 詰 め